

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志



1954年、IBC留学生と選考委員

1954年、IBC留学生と選考委員のグループ写真。前列には選考委員、後列には留学生が写っている。背景には教会の建物が見える。

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり



1972年、宣教師会議(東山荘)

の諸教会との宣教師協力を進めていく役割が与えられています。宣教師支援委員会は日本に來られた宣教師を様々な仕方で支える委員会です。新任宣教師オリエンテーションや宣教師会議を開催してお互いの交流を計り、彼らができるだけ早く日本の社会に慣れ、十分な働きができるよう手助けするのが任務となります。

このような体制で世界宣教師会が歩み始めました。しかし、まだ発足したばかりでこれからどのような形になっていくのか不分明な点があります。試行錯誤しながら徐々に本来の使命を果たすべく前進していくことを願っています。

はじめに 昨年十月に行われた第35回教団総会の決定により、世界宣教師会員の役割は大きな変換を遂げるようになりました。それはこれまでの「世界宣教師」委員会から、「世界宣教師」委員会へと名称が変えられたことからおもわかり頂けると思います。

過去 これまでの世界宣教師協力は七名の委員によって構成されてきました。その役割は多岐にわたりますが、その内の主たるものは教団が世界の各地に派遣している宣教師の方々に関する仕事です。

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

はじめに 昨年十月に行われた第35回教団総会の決定により、世界宣教師会員の役割は大きな変換を遂げるようになりました。それはこれまでの「世界宣教師」委員会から、「世界宣教師」委員会へと名称が変えられたことからおもわかり頂けると思います。

過去 これまでの世界宣教師協力は七名の委員によって構成されてきました。その役割は多岐にわたりますが、その内の主たるものは教団が世界の各地に派遣している宣教師の方々に関する仕事です。

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

現在 以上のようにJNACさらにはCOCの解散を受けて、世界宣教師会は彼らの任務を全て引き受けることになり

日本基督教団世界宣教の過去・現在・将来



木下宣世

の諸教会との宣教師協力を進めていく役割が与えられています。宣教師支援委員会は日本に來られた宣教師を様々な仕方で支える委員会です。新任宣教師オリエンテーションや宣教師会議を開催してお互いの交流を計り、彼らができるだけ早く日本の社会に慣れ、十分な働きができるよう手助けするのが任務となります。

このような体制で世界宣教師会が歩み始めました。しかし、まだ発足したばかりでこれからどのような形になっていくのか不分明な点があります。試行錯誤しながら徐々に本来の使命を果たすべく前進していくことを願っています。



荒野 何年も通ったラーメン屋を久しぶりに覗いたら、店が無くなっていました。安くて旨いので重宝していたのに、コンビニでお気に入りのジュースを買おうと思ったら品切れだった。人気商品なのだろうとひとりで納得していたら、それっきり店頭から消えた。そんな品が少なくない。▼俳優でも歌手でも芸人でも、テレビで見始めの頃は、強く違和感を覚える。しかし、家族に付き合って、何度か見ているうちに慣れてくる。だんだんその人の味が分かってきて、ああなる程と納得する。その頃になると、もう滅多に目にしなくなる。そんなことが重なる。▼自分

（第35総会期 世界宣教師委員長）

世界宣教委員会スタート

大幅な組織改定、名称も変更され

第35会期第一回世界宣教委員会が二月十六日(金)に開催された。

前会期までは世界宣教協力委員会として日本基督教団から各国の関係教会等へ

派遣することを大きな役割としていたが、第35回教団総会で委員会組織が大幅に改定され、世界宣教委員会と名称も変更された。

リ方(宣教協約を結ぶ諸教会との交流や宣教課題の共有、各国教会への派遣宣教師支援)に加え、日本国内の北米宣教師の支援も同時に担うことになった。その大きな理由の一つは、一昨年JNAC(北米宣教協力会)が解散し、COC(宣教協力協議会・北米からの宣教師人事に関する組織)が今年五月に解散することが決まっているためで、両組織の働きも果たす責任が生じた。つまり、世界宣教委員会は、日本内外の宣教師支援を含む世界宣教全般の責任を担う非常に重要な委員会となった。具体的には以下のような新設し、世界宣教委員会のもとに韓国協約・スイス協約・台湾協約・国際関係・



組織も人事も新たに、世界宣教委員会

二月七日(八日、教団会議室)において今総会期第一回部落解放センター運営委員会が開催された。出席者は二名。これまで東岡山治さん(上下教会)が永年にわたって運営委員長を務められたが、このたび新運

新運営委員長・主事・活動委員長選出

新体制整い運動強化を

部落解放

た結果である。今回の委員会では委員会組織がなされ、委員長に木下宣世教師(西千葉)、書記に上内鏡子教師(神戸イエス団)、実務委員に伊藤瑞男教師(静岡)が選ばれた。また、委員七名はそれぞれ、世界宣教委員会の構成員において、宣教協力学校協議会と日本キリスト教社会事業同盟から各一名ずつ加えられている。それは、北米宣教師らの多くが学校関係団体や社会福祉団体で奉仕してきたことを配慮し

ある課題について報告がない「旨の答申を受けている。しかし、現実的に非常に難しい場合もあるため、今後継続して協議を重ね、対策を考えていくことを全会で承認した。他にセンターの活動報告、会計報告、センター委員の役割について、各教区での取り組み報告、活動献金についてなど予定の時間を超えて関連な意見の交換が行われた。解放劇については、寄せられる反応や意見を考慮しながら、各地での上演を検討して欲しいと呼び掛けられた。また、一九八二年四月からセンターで働いてこられた五十嵐照美さんがこの三月で退職され、四月からはアルバイトとしてなおこ奉仕下さることとなった。部落解放運動はこれまでにも壁を幾度となく乗り越えながら前進していったことを覚え、新たな時代の中で特性を活かしタイナミックに展開させて欲しいなどの意見が聞かれた。教団の部落解放運動をさらに支え、

強い、進めていく熱意を感じさせる委員会となった。(多田玲一報)

東海教区 無効です

北 紀吉

「無効です」、昨年一月二七日に信仰職制委員会よりいただいた答申です。東海教区常置委員会が、教区決議が教憲教規に違反している場合、その決議は有効か無効か問うた答えです。

今まで、教憲教規を軽んじる傾向がありました。教区総会で決めればその決議が何よりも優先するように思っていた節があります。このことは教区決議にいても同様です。果たして教区決議や教会決

教区 コラム

議が教憲教規に勝るか。「無効です」との答申で明白です。昨年の教団総会前の常議員会で兵庫教区の決議が教憲教規に違反するとして無効と確定し、兵庫教区は按手札式をやり直しました。また、総会においても何ら異議が唱えられませんでした。まさに、教憲教規に違反する教区決議は無効であることが現実のものとなりました。また、今総会期第一回常議員会で山北議長は今期の運営については、教憲教規に基づいてほしいと

聖餐の一致は最早無い。信じている教会が違つとすればひとつの組織体であることに無理がある。お互い袂をわかつて信じる道を行くしかない。欺瞞はそろそろ終わりにしたらい。

(東海教区総会議長)



部落解放運動をさらに支え、強め、進めていく

これまで開催予定としていた教区との折衝を行う中で、センターは性差別問題や反差別連帯への取り組みが不十分であるとの指摘を受け、開催を延期して課題の検討が行われてきた。今後とも与えられた課題と向き合っていくことや候補として上がっていた教区での開催を祈り願いつつも、次回候補地を変えて準備を進

めていくこととなった。前回運営委員会では今年度の開催を検討したが、準備期間を考慮し二〇〇八年度中の開催を目指し準備を進めることとなった。他にセンターの活動報告、会計報告、センター委員の役割について、各教区での取り組み報告、活動献金についてなど予定の時間を超えて関連な意見の交換が行われた。解放劇については、寄せられる反応や意見を考慮しながら、各地での上演を検討して欲しいと呼び掛けられた。また、一九八二年四月からセンターで働いてこられた五十嵐照美さんがこの三月で退職され、四月からはアルバイトとしてなおこ奉仕下さることとなった。部落解放運動はこれまでにも壁を幾度となく乗り越えながら前進していったことを覚え、新たな時代の中で特性を活かしタイナミックに展開させて欲しいなどの意見が聞かれた。教団の部落解放運動をさらに支え、

強い、進めていく熱意を感じさせる委員会となった。(多田玲一報)

盲人伝道協議会よりのお知らせ

どこでも手軽に新約聖書を聞くことができる「バイブル・トーク」200台が、日本聖書協会より盲人伝道協議会に寄贈された。

盲人伝道協議会は多くの視覚障害者に聖書の言葉に触れてほしいとの希望から、これを無料で貸し出すことにした。

期間は半年。書、章、節選択可。

◎問い合わせは、

盲人伝道協議会

(新宿区西早稲田2-3-18

TEL 03-3203-4219) まで。



田中テル子氏(隠退教師)

一月十六日、逝去。七九歳。東京都に生まれる。一九五五年東京神学大学院修了後、遠州教会に赴任。五八年から八四年まで榛原教会を牧会し、隠退した。遺族は妻の道子さん。



長澤 廠氏(隠退教師)

一月十三日、逝去。七九歳。愛媛県に生まれる。一九五四年農村伝道神学校卒業。五八年、粉河教会に赴任。その後九二年まで同教会を牧会し、隠退した。遺族は息子の牧人さん。



田中テル子氏(隠退教師)

四年から同志社教会を牧会した。遺族は妻の美智子さん。

伊藤直己氏(隠退教師)

養女の大野木英子さん。



昨年十二月二八日、逝去。六七歳。神奈川県に生まれる。一九六六年東京聖書学校卒業後、横浜菊名教会に赴任。その後同教会を二〇〇二年まで牧会し、隠退した。遺族は妻の文子さん。

鎌谷 襄氏(同志社教会・担任教師)

鳥取県に生まれる。一九五五年同志社大学大学院修了後、和寒教会に赴任。その後八頭教会牧師を務め、六

伝道のともしび

先達の祈りを引き継いで

突喰教会牧師 畠澤 美雄

です。町の人々に「突喰教会はキリスト」として広く受け入れられ親しまれているのです。

突喰教会がこのように町の人々に受け入れられているのは先達の地道な伝道の働きがあったからです。突喰教会での伝道について決してはすくことができない方が浜口菊次・松子夫妻です。浜口菊次さんは大阪の教会の集会に出席した時に、説教に心を打たれ、即座に「洗礼を受けたい」と願ひ出たそうです。牧師は求道生活が短すぎることを理由に断りました。しかし浜口さんも譲らなかった。と

突喰教会が立てられている海陽町は昨年三月に突喰町、海部町、海南町の三つの町が合併して誕生致しました。徳島県の最南端に位置しており、県境である水床トンネルを抜けると高知県となりま

す。海岸線は太平洋を臨み、漁業と農業が中心の自然豊かな町です。

突喰教会の特徴の一つは町の人々からの呼ばれ方です。町の人々は突喰教会と呼びません。ただ「キリスト」と呼びます。付属の保育所も「キリストの保育所」、牧師も「キリストの先生」

うとう隣にいた牧師が見るに見かねて、取りなしをしました。「三つの約束をするなら受洗できるように頼んであげよう」。その三つというのが「聖書を毎日読むこと」「毎日祈ること」「伝道をするこ

と」。浜口さんは、故郷の突喰に戻ってから、この三つの約束を守り続けたのです。

突喰に戻られた浜口夫妻を中心に、何力所が軒々と部屋を借りて集会が続けられて行きました。午前中はバートナーの松子さんが、農家の子供たちを集めて保育し、小さな子供への伝道を行いまし

た。夜には大人のための集会を浜口菊次さんが行いました。またこの集会には、多くのアメリカからの宣教師の方々に協

力して頂いたそうです。今も昔からの教会の人たちが懐かしそうに話すが、宣教師の方を招いて伝道集会を開くときは、浜口夫妻を先頭に教会の人たちが行列になり、大鼓やタンバリンをたたいて町を行進したそうです。突喰の町だけではなくて、海部町へも海

南町へも隣の高知県甲浦

にも、山を越えて、賛美歌を歌い訪問して祈り、人々を集

会に導いたそうです。そうした地道な伝道活動を続けた結果、この地域では教会のことを「キリスト」と呼ぶようになったのです。

さて、突喰教会は最初の頃から、多くの宣教師、牧師たちに支えられてきましたように、その後



浜口夫妻の写真と保育所の子どもたち

の歴史も多くの諸教会に支えられてきました。特に二年間の無牧時代は突喰教会の危機でありましたが、香長伝道園の諸教会に支えられて伝道続けることができた。そして現在に至るまで香長伝道園の協力伝道の交わりの中で、突喰教会は歩みを続けておりま

す。いくつか具体的に言えば、突喰教会の伝道の働きにおいて重要な位置を占める付属の保育所は、突喰教会だけではその働きを担うことはできません。香長伝道園の牧師、長老、信徒が理事や監事として加わってくださり、保育所での伝道の働きを続けております。

また突喰教会も近隣の教会が行っている開拓伝道の業に教会として加わり、牧師と長老を送り出しております。このように一つの教会の伝道の業に周りの教会も加わり、協力して伝道の働きを行っているのです。地の果てまで福音を宣べ伝えよ」と命じられた主の御言葉に従い、同じ主の御体の肢として共に地域での伝道の業を担っているのです。

突喰教会は来年度で創立七〇年を迎えます。信仰の先達が灯した伝道のともし火を、主に助けられ、地域教会と協力しつ、これから

「隠退教師を支える運動」九州教区福岡地区・推進座談会



活発な意見交換を終えて

二〇〇七年二月五日(月)福岡市内の九州キリスト教会館で「隠退教師を支える運動」九州教区・福岡地区の推進座談会が開催され

た。出席は教師八名・信徒十一名であった。

開会礼拝では、地区委員長、松崎豊牧師の代理で澤村雅史牧師より、説教をいただいた。

続いて、隠退教師を支える運動、多田信一委員長が病欠欠席のため、滝川英子書記の挨拶、そして出席者が自己紹介をした。

まず、この「隠退教師を支える運動」1000円献金」という信徒運動の主旨を確認。

この運動がスタートした原点に立って「隠退された教師」への感謝の意を表わす行為としての1000円献金であることを出席者一同納得。そのあと、各教会の献金担当者による現状報告があり、それを補うように教職の助言が添えられ、その報告に対して質疑応答があった。

具体的なこととして、より多くの教会員に献金を呼びかける苦い話もあった。

「継続は力なり」と、教会の中で、この献金運動を推進している方の発言には、経験に裏打ちされたものを感じた。担当者が、クリスマスなどに「一括献金」として、お願いするよりも毎月、信徒一人ひとりに献金袋を渡して協力をお願いした方が結果がよい。担当者の手数は増えるけれども、その分、喜びも多い。

私自身、佐世保教会の担当者として、聖日ごとに1000円献金が入った袋を、載っている。

教団教師退職年金制度についても、謝恩日献金の目標額が八千万円になったことなどを説明。

以上のような、報告をも含んだ座談会で学ぶことが多かったと思う。勿論、或る担当者は「教会の厳しい現実を告げられると考えるでしなう」という発言もあった。

以上、隠退された教師とご家族の生活支援について、出席者一同、深い理解が持たれ、今後の推進の弾みとなる有意義な座談会であったことに感謝する。(川畑馨報)



大野 忠さん

主がゆるしてくださるかぎり



1941年、群馬・桐生市生まれ。桐生市体操協会副会長。泉町教会員。

この2月、大野さんは、桐生市体育協会から体育功労賞を受けた。桐生の体操界草分けとして、市体操協会の創立から30年以上に亘る体操、体育振興への尽力が評価されたことだ。現在は体操協会副会長を務める。

体操協会は、器械体操をはじめ、体操競技の後進育成、指導者育成をしてきた。プロ化した指導者を持つ体操クラブなどから有力選手が輩出されるのが一般化するなかで、体操協会は学校教師などが全くの無報酬で地域の体操クラブを中心に活動してきた。全国大会でも上位に入賞する選手を育成する。オリンピックでの日本体操陣の活躍は子供たちを刺激した。未就園児から高校生まで多いときには1000名を超すことも。自前の体育館を保有したこともある。

大野さんは高校生のときに器械体操に出会った。吊り輪を得意とした。県大会で2年に亘り1位、関東大会でも上位入賞を果たした。指導者もなく試行錯誤をしながらの練習だった。指導者がほしかった。その思いが体操協会設立につながっている。子どもたちが懸命に練習する姿には感動をおぼえる、と言う。表彰は、たまたま自分が副会長であるときに巡ってきたものの、協会がもらう賞を代表して受けるつもり、と述べる。

大野さんの父母も熱心なキリスト者だった。大野さんが17歳の時に父は亡くなった。母がその後、5人の子どもを育てた。純朴なホーリネスの信仰を持った母だった。聖日厳守が大野さんにもしっかりと継承されている。

兄弟と立ち上げた会社は、水道関係の仕事をする。皇居の貯水槽、水周りの保守点検も長年手がけた。教会でも管轄に手腕を振るう。大正期に建てられ、昭和初期、現在地に移築された旧会堂、現在の牧師館を建て替えるための検討が教会としてはじまった。

主がゆるしてくださるかぎり、協会にも、会社にも、そして教会にも力を尽くしたい。

「Kちゃんは、今年成人式です」と言われ、うっかりしていたことを悔いた。一月の役員会のときである。その役員会で、二〇歳を迎えているKちゃんに堅信礼を施すことになった。役員会の祈りの決断である。Kちゃんは知的障害を伴った自閉症である。両親により幼児洗礼を受けたのは一歳であり、二年後にはお父さんが召天されている。お母さんと共に礼拝に出席しつつ成長した。

役員会の決断は、そんなに時間を要しなかった。このクリスマスには三人の皆さんが洗礼を受けた

ある堅信礼

が、その一人は知的障害者のYさんである。Yさんはいつもニコニコと笑みを見せている。あまりお話しはしない。礼拝出席簿に名前を書くときには、妹さんに書いてもらったり、妹夫婦の家で生活するように自分の名前を写すようにして記す。私達の家族としてYさんに洗礼を受けていただきましょう、と役員会が決断したのである。

Kちゃんは信仰告白が出来ない。教会員が代わって信仰の告白を行い、神の家族の一員として共に歩みたいのである。今年のイースターは奇跡が起こるのである。(教団書記 鈴木伸治)